

県立工業技術センター研究課題評価シート【平成 27 年度】

【事前評価】

No.	研究課題名	研究の概要	評価結果及び委員からのコメント	提案機関へのアドバイス
	主担当部署			
	研究期間			
1	<p>県産酵母からの尿素非生産性株の育種</p> <hr/> <p>材料・分析技術部</p> <hr/> <p>平成 28 年度 (1 年間)</p>	<p>海外には日本酒に含まれるカルバミン酸エチルを規制している国がある。カルバミン酸エチルは尿素より生成されることから、海外輸出をする場合には尿素を生産しない酵母を用いた日本酒製造が必要となる。</p> <p>そこで本研究では、平成 25 年の播磨国風土記編纂 1300 年記念酒「庭酒」の開発で取得した県産酵母から、尿素を生産しない「尿素非生産性株」を取得する。</p>	<p>【採択】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県産酵母を利用した清酒の開発に重要な研究である。</li> <li>時機を得たテーマである。</li> <li>兵庫県の特産品として開発して欲しい。</li> <li>兵庫の清酒を広めていくよいチャンスと考える。</li> <li>県独自の酵母を使い話題性と清酒の海外展開を目指した研究開発であり、必要と考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>清酒の海外への輸出において規制をクリアしていくことが必至であり、海外での売上げ増加につなげる研究（味、香りも含め）を続けて欲しい。</li> <li>新酵母の開発とともに、方法論としてのブラッシュアップを期待する。</li> <li>酵母の管理を厳重にして欲しい。</li> <li>方法論として確立した後、各種兵庫の酒について広げて行って欲しい。</li> <li>取得された酵母の特性やそれにより作られる酒の特徴を確実につかみ、研究を進めて欲しい。</li> </ul>

No.	研究課題名	研究の概要	評価結果及び委員からのコメント	提案機関へのアドバイス
	主担当部署			
	研究期間			
2	<p>意匠性を付与した炭素繊維複合糸織物の開発</p> <p>繊維工業技術支援センター</p> <p>平成28年度 (1年間)</p>	<p>炭素繊維は、自動車部品への適用など一般産業用途へのニーズだけでなく、身近な製品への用途も拡がりつつある。また、生産性の観点から熱可塑性樹脂をマトリックスとした製品開発も活発である。一方、炭素繊維からなる織物および成形品は黒一色であり、意匠性を付与した材料開発のニーズがある。本研究では、シーズ技術で作製する炭素繊維複合糸およびそれから構成される織物に関して、先染綿糸やアラミドなど色彩ある素材との複合化および交織等でストライプやチェック柄など従来にない、色彩ある炭素繊維複合糸からなる織物を開発する。複合糸は熱可塑性樹脂繊維も複合化されているため、複合糸織物を加圧および加熱すれば、熱可塑性樹脂繊維が熔融含浸してマトリックスとなり、短時間で意匠性ある成形品の開発が期待できる。</p> <p>ミシンで作製する複合糸の構成や織機で作製する織物規格等の検討および試作を行い、それらからの成形材料の特性評価することで、介護福祉分野や家具類に利用可能な材料開発を目指す。</p>	<p>【採択】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>幅広い分野への応用が可能であると思う。</li> <li>期待が持てる。</li> <li>播州織の活性化のために必要と思う。</li> <li>播州織の新たな応用と考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コストを視野に入れ、様々なニーズに対応できる製品を開発して欲しい。</li> <li>意匠性の定義がポイント。カラーアプリとしてはやはり車のインテリア(シート他)。</li> <li>これでなければダメという応用分野をもっと追求して欲しい。</li> <li>既に持っておられる多くの技術力を元にしたテーマであり、かつ県内企業の新たな用途が明確になると研究開発の方向が決まり、加速するのではないか。</li> </ul>